

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

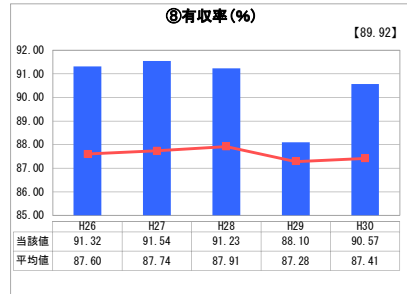
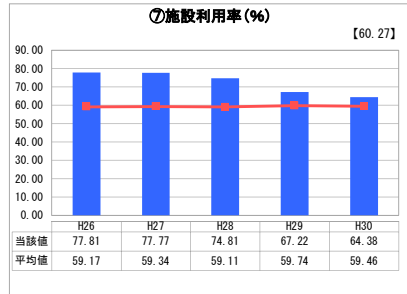
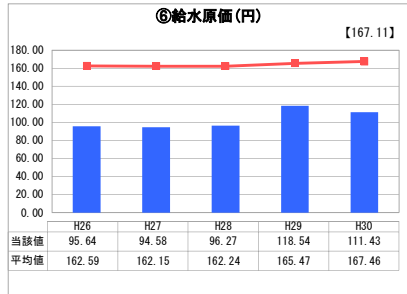
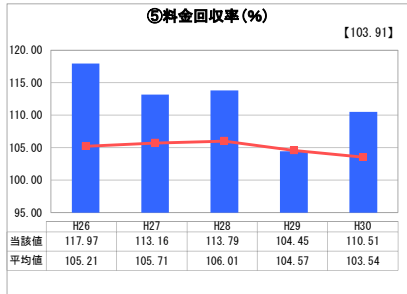
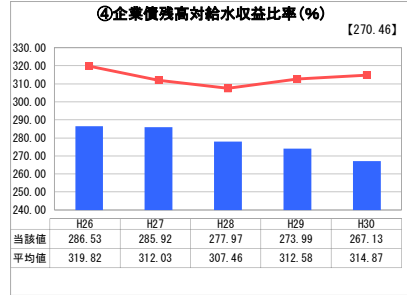
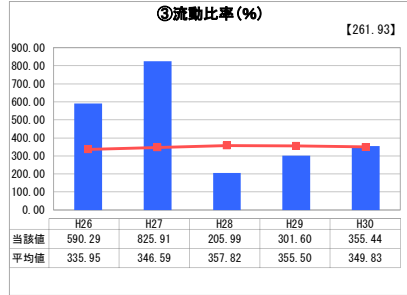
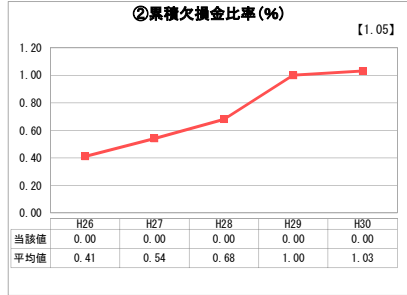
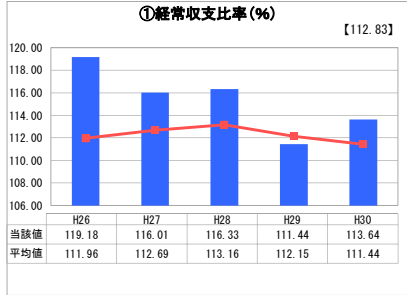
兵庫県 たつの市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)	
-	81.63	99.90	1,782	

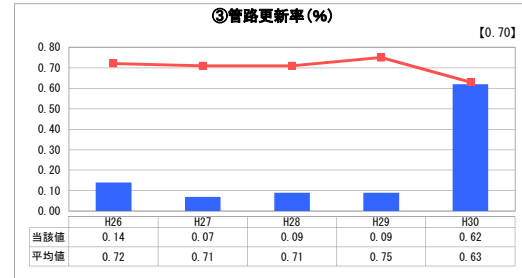
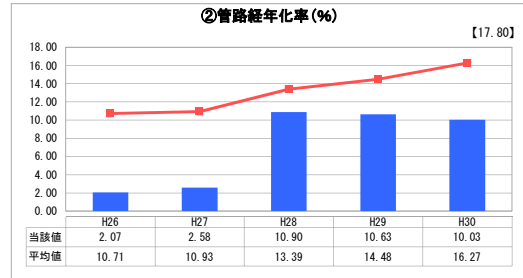
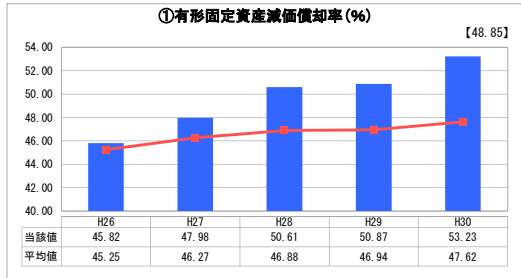
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
76,909	210.87	364.72
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
53,718	78.09	687.90

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

【経常収支比率】  
経営努力で経常収支の黒字基調を堅持しているが、年々、収益が減少傾向にあるため分析を続けていく必要がある。

【流動比率】  
支払能力については充分であると判断できるが、今後とも現金預金等の状況に注視する。

【企業債残高対給水収益比率】  
比率は、類似団体と比較しても低い水準で推移しており、余力はあると考えられるが、今後の更新について安易に企業債に頼らず、引き続き企業債残高の減少に努める。

【料金回収率】  
動力費削減により、大幅な費用削減となり、給水原価が減少したため回収率が上昇した。引き続き経費節減に努め、更新の資金確保に努める。

【給水原価】  
同様に動力費削減による費用減により全国平均や類似団体と比較して低い水準であるが、更なる経費節減に努めていく。

【施設利用率】  
類似団体と比較して、概ね高めであるが、近年低下傾向にあるため、今後の動向を注視しつつ、施設規模の適正化について検討していく。

【有収率】  
29年度は大規模漏水があったため有収率が低下したが、修理により30年度は有収率は上昇した。今後、有収率の向上のため引き続き漏水調査での早期発見と施設の更新が進めていくことが必要である。

【総括】  
経営状況は概ね良好であるが、今後とも健全経営を維持しつつ、有収率の低下を防止するため、計画的な管路更新を進めていく必要がある。また、管路経年化率については類似団体より低いのが、今後急速に更新需要が増加すると考えられる。引き続き管路更新の優先順位付けや平準化を図りつつ、施設更新を効率的に実施するための更新計画を策定していく。

### 2. 老朽化の状況について

管路図台帳等をアセットマネジメントで整理した結果、30年度は更新率が上昇した。

老朽化について指標から判断すると、類似団体と比べて減価償却率が年々上昇しており、順次施設更新を進めていく必要がある。また、管路経年化率については類似団体より低いのが、今後急速に更新需要が増加すると考えられる。引き続き管路更新の優先順位付けや平準化を図りつつ、施設更新を効率的に実施するための更新計画を策定していく。

### 全体総括

これまでの経営状況は、比較的順調に推移しているが、安全で安心な水の安定供給のため、今後は積極的に管路更新を行い、施設の老朽化を防ぐ必要がある。一方で、今後増加する更新需要や人口減を見込んだ適正料金の算定による料金改定も視野に入れつつ、更新のための資金確保に努め、健全経営を維持していく。